

北海道のチカラ「今、私たちにできること～3.11を風化させない」 未来をあゆむ君たちへ「広場づくり」 チ・カ・ホで約2,000人が被災地へ心寄せる

北海道テレビ放送会社（HTB）では、大震災の翌年からアナウンサーたち有志が立ち上げた「今、私たちにできること～3.11を風化させない」という、大震災の記憶を風化させないイベントを実施しています。5年目となった今年は、「未来をあゆむ君たちへ」をテーマに、親子で参加していただけるイベント作りを行いました。会場となった札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）を行き交う約2,000人の人たちが足を止めて下さり、被災地、被災された方々へ思いを寄せる、「広場づくり」が広がりました。

去年に引き続き、被災地の支援活動を個人で続けている元札幌交響楽団首席チェロ奏者の土田英順さんによるチャリティコンサートを実施。土田さんが代表をつとめる「東日本大震災支援 じいたん子ども基金」への寄付を呼びかけたほか、アナウンサーたちによる震災関連の絵本の朗読。また、「福島県 変動の5年間」と題して福島県農林水産部長の小野和彦さんと福島県から札幌に避難し、故郷の支援活動を続けているFMパーソナリティの宍戸慈さんによるトークや、福島マルシェも行いました。

情報番組「イチオシ！」（月・金 午後3:55-7:00）司会の国井美佐アナウンサーが取材した福島の現状をボードで展示。また、桜の花びら型のカードに福島への応援メッセージを書いて頂き、メッセージで満開となった桜の木のタペストリーを福島県庁へ寄贈、県民の方々にご覧いただくことになっています。また、初めて取り組んだ、「onちゃん親子ひろば」では、家族で被災地に思いを寄せて欲しいとアナウンサー自らが子ども達と東北の木製玩具や絵本の読み聞かせを通じて触れあいました。

なお、土田英順さんの「じいたん子ども基金」へは、213人の方々が寄付にご協力頂きました。詳しくは、後日、ホームページで寄付金額等を報告させていただきます。HTBでは、これからも東日本大震災を風化させない、また被災地の現状を伝える取組みを行って参ります。

